

2024 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいわけではなく、やすく記述してください。

1. 学術研究事業

(1) 国際学術交流企画

① 日中韓国際学術会議「東アジアにおける都市人文学の構築と連帯」(2024 年 6 月 28 日)

立命館大学コリア研究センターと大邱大学校人文科学研究所の共同開催により立命館大学衣笠キャンパス図書館カンファレンスルームで上記の学術企画を開催し、発表、討論を務めた。

② 韓日中交流シンポジウム「百済の光芒：韓日交流の軌跡」(2024 年 10 月 12 日～13 日)

立命館大学コリア研究センターと又石大学校東アジア平和研究所の共同開催により又石大学校（大韓民国全羅北道完州郡参禮）で上記のシンポジウムを開催し、発表、討論を務めた。

③ 国際共同研究シンポジウム「好感と憎悪の情動地理」(2024 年 11 月 8 日)

立命館大学コリア研究センターと東亜大ジェンダーアフェクト研究所の共同開催により東亜大学校乗鶴キャンパスで上記のシンポジウムを開催し、発表、討論を務めた。

④ 国際共同研究シンポジウム「好感と憎悪をめぐる情動政治学」(2025 年 2 月 16 日)

③に続き、2 機関の共同開催により立命館大学衣笠キャンパス清心館で上記のシンポジウムを開催した。

(2) RiCKS 月例研究会

① 第 130 回 RiCKs 月例研究会(5 月 14 日)

報告者：文鍵英(済州大学校法学専門大学院法学教授、立命館法政基盤研究センター客員研究員)

テーマ：韓国における事実摘示名誉毀損罪の廃止に関する検討

② 第 131 回 RiCKs 月例研究会(6 月 17 日)

報告者：申鉉昨(立命館大学国際地域研究所客員協力研究員)

テーマ：韓国の良心的兵役拒否に関する再考—人権保障の側面から反戦平和運動の側面への転換

③ 第 132 回 RiCKs 月例研究会(7 月 5 日)

報告者：林東昊(立命館大学コリア研究センター客員研究員)

テーマ：韓国の政権交代が対日外交政策に及ぼす影響について

④ 第 133 回 RiCKs 月例研究会(7 月 19 日)(ミドルベリー国際大学院モントレー校ジェームス・マーティン不拡散研究センターとの合同研究会)「朝鮮民主主義人民共和国の核兵器開発についての考察」

⑤ 第 134 回 RiCKs 月例研究会(11 月 27 日)

報告者：影本剛(立命館大学コリア研究センター客員研究員)

テーマ：『近代朝鮮文学と民衆：三・一運動、プロレタリア、移民、動員』(春風社、2024)が投げかけた問い

⑥ 第 135 回 RiCKs 月例研究会(12 月 18 日)

報告者：李熙乙(立命館大学コリア研究センター客員研究員)

テーマ：植民地期朝鮮における共産主義運動史研究の動向と課題

2. 若手人材育成

本学文学研究科博士課程後期課程の大学院生を RA として雇用し、学術企画の運営に積極的に関与せしめた。また、すべての学術研究事業に若手研究者の積極的な参加を促し発表を奨励するとともに、研究基盤を提供した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		勝村 誠	政策科学部	教授
運営委員		文 京洙	国際関係学部	非常勤講師
		庵途 由香	文学部	教授
		石川 亮太	経営学部	教授
		金 友子	国際関係学部	准教授
		宋 基燦	映像学部	教授
		轟 博志	立命館アジア太平洋大学サスティナビリティ観光学部	教授
		中戸 祐夫	国際関係学部	教授
		松坂 裕晃	国際関係学部	准教授
		総田 芳徳	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部	教授
		金丸 裕一	経済学部	教授
		孫 片田 晶	産業社会学部	准教授
		張 惠英	経営学部	准教授
		鄭 雅英	経営学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		権 学俊	産業社会学部	教授
		佐々 充昭	文学部	教授
		高屋 和子	経済学部	教授
		中達 啓示	国際関係学部	特任教授
		松本 克美	法科大学院	教授
		成田 千尋	衣笠総合研究機構	助教
		崔 正勲	衣笠総合研究機構	客員准教授
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	馬場 一輝	国際関係研究科	博士課程
		Oliver Jia	国際関係研究科	博士課程
		Choi yoon hyuk	国際関係研究科	博士課程
		Suh sung hyun	国際関係研究科	博士課程
		KIM SORA	政策科学研究科	博士課程
	学振特別研究員			

	(PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	宋 隠宮	文学部	非常勤講師
	森 類臣	文学部	授業担当講師
	宋 基栄	国際関係学部	授業担当講師
	三上 聡太	文学部	授業担当講師
	張 恵英	言語教育センター	非常勤講師
	塚崎 昌之	文学部	授業担当講師
	橋本 妹里	文学部	授業担当講師
	影本 剛	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	坂本 悠一	－	－
	戸塚 悦朗	紀尾井町法律事務所	弁護士
	波佐場 清	－	－
	高野 昭雄	大阪大谷大学 教育学部 教育学 科	教授
	松本 智也	四国学院大学 文学部 人文学科	助教
	森 類臣	摂南大学 国際学部 国際学科	特任准教授
	林 茂澤	元立命館大学非常勤講師	－
	尹 健次	元立命館大学非常勤講師	－
	梁 仁實	岩手大学 人文社会科学部	准教授
	岡崎 享子	元立命館大学博士課程	－
	田中 隆一	北洋大学 留学生別科 京都校	専任講師
	崔 瓊元	－	弁護士
	橋本 妹里	－	－
	川瀬 俊治	－	フリージャーナリスト
	金 東僖	高麗大学 民族文化研究院	研究教授
	徐 勝	韓国又石大学校碩座	教授
	坂本 知壽子	延世大学校 社会発展研究所 大阪市立大学 都市・研究プラザ	専門研究員 特別研究員
	宋 基栄	立命館大学	授業担当講師(朝鮮語)
	文 聖姫	週刊金曜日	編集長
	金 泰勲	阪南大学	非常勤講師
	曹 昇美	国立韓国放送通信大学校大学院 法学科	「近現代の法と人権」 科目チューター
	全 ウンフィ	大阪公立大学 文学研究科都市文 化研究センター	研究員
	尹 仁魯	韓国研究財団	学術研究教授
	洪 ジョンウン	大阪公立大学 人権問題研究セン ター	特任助教

	宇都宮 めぐみ	—	—
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表
	吉川 絢子	佛教大学 平安女学院大学 龍谷大学	非常勤講師
	青柳 純一	立命館大学衣笠総合研究機構	客員協力研究員
	佐々木 亮	—	編集者・ライター・リサーチャー
	高 恩美	韓国研究財団	学術研究教授
	沈 熙燦	延世大学(韓国)	副教授
	白 凜	立命館大学	非常勤講師
	李 裕淑	—	—
	Park Chris Hyunkyu	一橋大学	非常勤講師
	徐 潤雅	大谷大学	非常勤講師
	生駒 智一	立命館大学 国際関係学部	授業担当講師
	崔 碩烈	延世大学国語国文学科大学院博士課程 2024 年 3 月卒業見込	—
	徐 希寧	立命館大学大学院国際関係研究科博士課程後期課程 2024 年3月卒業見込み	—
	林 東昊	元民主党蔚山広域市堂委員長及び中央堂最高委員	—
	HAM YONGKWON	FREELANCE LANGUAGE TRANSLATOR	EDITOR(ENGLISH/ KOREAN)
	権 太杰	同志社大学 コリア研究センター	ポスドク
	李 熙乙	慶北大学校 人文学術院歴史文化アーカイブ研究センター	研究員
	朴 伸次	龍谷大学教学部 留学生別科 国際学部	非常勤講師
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
センター構成員 計 77 名 (うち学内の若手研究者 計 5 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目）

※ページ数の制限は無し

※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025 年 3 月 31 日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	松坂 裕晃	アジア系アメリカを知るた	共著	2024 年 10 月	明石書店	李里花編著,	pp.164-168,

		めの53章				共著者多数	pp..269-273
2	文 京洙	現代の日本と韓国と在日を架橋する	共著	2024年4月	立命館大学アジア・日本研究所	李眞恵	pp.1-73
3	中戸 祐夫	『総論：岸田政権の外交・安保政策の遺産』（韓国語）	共著	2024年11月	慶南大学極東問題研究所		pp.1-16
4	카세다 요시노리	한반도 문제해법 : 새로운 모색	共著	2024年7月	한국학술정보	곽태환, 이승우	pp. 352-380
5	金丸 裕一	『湖畔之聲』総目次／執筆 者索引 - 1912年～1946年	共著	2025年2月	かんよう出版	田中浩一・高橋悠・大 塩量平・中尾まこ	pp.1-330.
6	石川 亮太	帝国の藻類学：岡村金太郎 の朝鮮産海藻研究	共著	2025年3月	思文閣出版「植民地帝国日 本とグローバルな知の連 環：日本の朝鮮・台湾・満 洲統治と欧米の知」	松田利彦・陳延媛他 18名	pp.185-219
7	石川 亮太	近代朝鮮の海藻貿易と大 阪：テングサとフノリを中 心に（第4章）	共著	2025年3月	関西大学出版部「関西経済 とアジア：歴史的視座から の考察」	西村雄志，岩橋勝， 木山実，西村成弘， 北波道子	pp.,89-117

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有無
1	轟 博志	A basic study on the location and distribution of Wonwoo in the Joseon Dynasty (韓 国語)	単著	2024年 12月	韓国古地図研究会，韓国古 地図研究，16巻2号		pp.211-235	有
2	轟 博志	Road, City, Mountain, and River: Geographical Identity of Korea in Joseon Era(Scopus Indexed)	単著	2024年 7月	Academy of Mobility Humanities, Konkuk University, Mobility Humanities, 4巻1号		pp.151-172	有
3	轟 博志	Comparative study on the 'Itinerary' systems of modern Korea and China (韓 国語)	単著	2024年 6月	韓国古地図研究会，韓国古 地図研究，16巻1号		pp.5-24	有
4	金 友子	書評 朴一『在日と いう病 ― 生きづら さの当事者研究』	単著	2024年5月	国際高麗学会『コリアン・スタ ディーズ』（12）		pp.131-134	無
5	松坂 裕晃	壁を越える詩：ナイ ドゥと許貞淑、金億 をつないだ「植民地 間意識」	単著	2024年12 月	『抗路』12号		pp.56-66	無
6	文 京洙	吊いの政治学 死者 と生者の行き交い 韓国／日本	単著	2024年11 月	『抗路：在日総合誌』12号		pp.134-145	
7	総田 芳憲	トランプ政権と米朝 関係	単著	2025年3月	地平社『地平』2025年4月号		PP. 58-67	無
8	総田 芳憲	日本の対中安保政策 の批判的考察	単著	2024年7月	立命館大学東アジア平和協力 研究センター専門家コラム		PP. 1-10	無
9	中戸 祐夫	North Korea's "Two Hostile States" Theory : Enhancement of Deterrence?	単著	2024年11 月	The Korean Association of International Studies, Korea On Point			なし
10	中戸 祐夫	<書評>権憲益・鄭 炳浩『「劇場国家」北 朝鮮―カリスマ権力 はいかに継承された のか』（趙慶喜訳、法 政大学出版会、2024 年）	単著	2024年6月	THE BOOK REVEIW PRESS、図書新聞			なし

11	金丸 裕一	台北のたのしみかた	単著	2024 年 10 月	立命館アジア・日本研究所、 『アジア・マップ』vol.2		ネット配信	無
12	金丸 裕一	賀川豊彦「秘話」誕生の戦後史的背景ー日台キリスト教交流史の文脈から	単著	2024 年 11 月	賀川豊彦学会、『賀川豊彦学会論叢』第 31 号		pp.1-46.	有
13	金丸 裕一	清水安三初期文選（上）ー1917 年～1921 年ー	単著	2024 年 11 月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第 73 巻第 3 号		pp.182-222.	無
14	金丸 裕一	戦後キリスト教界における「平和」観ー近江兄弟社の言説を思考する	単著	2024 年 11 月	中央研究院近代史研究所、「冷戦與當代東亞国際政治秩序 1950-1989」會議論文集		pp.1-16.	無
15	金丸 裕一	賀川豊彦による民国形象攷ー1920 年代を中心に	単著	2025 年 3 月	立命館大学経営学会、『立命館経営学』第 63 巻第 6 号		pp.49-67.	無
16	金丸 裕一	清水安三による中国伝道の実証的考察ー1913 年 - 1924 年	単著	2025 年 3 月	国際基督教大学アジア文化研究所、『国際基督教大学学報 III・A アジア文化研究』第 51 号		pp.1-34.	有
17	庵途 由香	ミュージアム展示評	単著	2025 年 3 月	京都民科歴史部会『新しい歴史学のために』305 号		pp.55-61	無
18	権 学俊	「朝鮮人特攻隊員の表象と顕彰」	単著	2024 年 9 月	『歴史評論』2024 年 9 月号		pp.41-52	無
19	松本 克美	「石綿関連疾患の損害賠償債務の遅延損害金の起算日と損害賠償請求権の消滅時効起算点の関係」	単著	2024 年 12 月	立命館大学法学会『立命館法学』第 415 号		pp.1020-1038	無
20	成田 千尋	「戦後沖縄社会の構造変化と米軍政ー自治機構の変化を中心に」	単著	2024 年 6 月	『歴史教育』			有
21	勝村 誠	ウトロ平和祈念館ー東アジアの出会いと発見の場	単著	2024 年 7 月	歴史地理教育, 972 号			無
22	勝村 誠	【随想】ウトロ平和祈念館ー出会いと発見の場	単著	2025 年 2 月	手話通訳問題研究, 171 号		pp.6-7	無
23	勝村 誠	現代日本社会における治安維持法関連活動の意味ー治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟を中心に	単著	2025 年 3 月	国際学術シンポジウム「韓国独立運動と治安維持法」	独立記念館	pp.32-51	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	轟 博志	朝鮮半島の古代都市における行政区域	2024 年 11 月	ASIA PACIFIC CONFERENCE 2024	
2	轟 博志	韓国の古道と通信使道	2024 年 10 月	福岡朝鮮通信使研究会例会	
3	轟 博志	麗末鮮初における駅舎の地理的分布変化	2024 年 10 月	The 12th World Congress of Korean Studies	
4	轟 博志	交通結節点としての完州地域の重要性	2024 年 10 月	日韓中国際交流シンポジウム「百済とシルクロードの出会い」	
5	轟 博志	Formalization and side effects of heritage utilization for tourism; Case of Japan Heritage	2024 年 8 月	35th International Geographical Congress – Dublin 2024	
6	轟 博志	韓国都市景観に見る歴史の記憶：古代から現代へ	2024 年 6 月	東アジア都市人文学の構築と連帯：21 世紀地域学の未来を論じる	
7	張 惠英	「反日映画」言説を超えて：日本における韓国映画言説	2025 年 2 月	朝鮮史研究会、大阪産業大学	

		の再考察			
8	金 友子	在日 2 世のライフヒストリーと韓学同——「在日という病」を中心に	2024 年 9 月	北東アジア学会学術研究大会、大阪商業大学（大阪府東大阪市）	金早雪、鄭雅英。第五分科会「民族運動としての『在日韓国学生同盟』（1949～1996/2010 頃）の検証」
9	金 友子	「マイクロアグレッション」が日本社会に与えたインパクト：理解・誤解・反発	2024 年 9 月	第 40 回日本解放社会学会大会、中京大学（愛知県名古屋市中区）	
10	Wooja KIM	The Struggle of Second-Generation Zainichi Women against “Double Oppression” in an Ethnic Community	2024 年 8 月	International Federation for Research in Women's History 2024 Conference, Sendagaya Campus-Tsuda University, Tokyo, Japan	Mairead Hynes, Chris Hyunkyu Park. Race, Gender, and Transnationalizing Women's Organizing in Japan (1960s/70s) (Panel)
11	金 友子	「気にしない」は差別なのか	2024 年 6 月	全国大学同和教育研究協議会 2024 年度 春季公開シンポジウム、龍谷大学大阪梅田キャンパス（大阪市）	
12	松坂 裕晃	帝国を伝う詩：クロード・マッケイ「もし死なねばならぬなら」の朝鮮語訳と日本語訳	2024 年 6 月	日本アメリカ学会年次大会部会 C 早稲田大学	
13	松坂 裕晃	植民地期朝鮮の社会主義の越境性：インドとブラック・アメリカに関する言論を事例として	2024 年 7 月	青丘文庫研究会／朝鮮近現代史研究会神戸市立図書館	
14	松坂 裕晃	The Power of Poetry: Translation and Anti-Imperialism in Colonial Korea and the Diaspora	2025 年 2 月	統一人文学世界フォーラム クイーンズランド大学（オーストラリア）	
15	文 京洙	「漂流する韓国政治：＜弾劾＞政局の行方」	2024 年 12 月	立命館大学東アジア平和協力研究センター	
16	文 京洙	どうなる？ 韓国社会——大統領弾劾政局の行方と日韓関係	2025 年 3 月	京都アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会(京都教育文化センター)	
17	KASEDA Yoshinori	A Critical Evaluation of Japan's Doubling of Defense Spending	2024 年 11 月	Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan	NAKATO Sachio, NAKATSUJI Keiji (Panel)
18	KASEDA Yoshinori	Japan's Interests and Objectives regarding the Japan-US-ROK “Military Alliance”	2024 年 11 月	2024 Peace Solidarity Northeast Asia International Academic Conference, Gwangju Peaceful Unification Policy Forum, Chosun University East Asia Research Center, GIST Center for Interdisciplinary Education and Research (CIER), GIST, Gwangju, South Korea	
19	KASEDA Yoshinori	Japan's Security Policy under the Kishida Administration: Its Problems and Alternatives	2024 年 5 月	Korean Studies and Contending Issues between Mongolia and Korea, Inha University Center for International Studies (CIS), School of Political Science, International Relations and Public Administration of National University of Mongolia, Hotel Bareve, Jeju, South Korea	
20	KASEDA Yoshinori	A Critical Evaluation of Japan's Doubling of Defense Spending	2024 年 11 月	Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan	NAKATO Sachio, NAKATSUJI Keiji (Panel)
21	中戸 祐夫	Is a "Taiwan emergency" an emergency for Japan and Korea? How Japan and South Korea view a "Taiwan emergency."	2024 年 11 月	Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University	

22	中戸 祐夫	Japan's Economic Statecraft: The Case of Export Controls on South Korea	2024 年 12 月	立命館大学東アジア平和協力研究センター、ROK-Japan Economic Security Dialogue、オークラホテル京都	
23	中戸 祐夫	岸田政権の外交・安保政策遺産—台湾有事と北朝鮮問題—	2024 年 11 月	第 2 次冷戦到来と安全かつ持続可能な韓半島秩序構築の模索、東国大学北韓研究所	
24	中戸 祐夫	South Korean, Japanese, Indian, and Taiwanese responses to Trump 2.0	2025 年 02 月	Institute for National Security、Strategy Geopolitics, East Asia Flashpoints, and Interconnected Conflict Risks	
25	鄭 雅英	1960 年代の韓学同運動と日本社会—交錯しなかった社会運動	2024 年 9 月	北東アジア学会第 30 回学術研究大会第 7 分科会、大阪商業大学	
26	金丸 裕一	『中国キリスト教史研究入門』を編纂するために—試論的な提言—	2025 年 2 月	中華圏プロテスタント研究会、神戸外国語大学	
27	石川 亮太	変動期中国・インドにおける制度：商人・塩専売・慣習（パネルディスカッション、担当「華人系商人と日本産コンブ」）	2024 年 4 月	社会経済史学会「社会経済史学会第 93 回全国大会」東京都立大学南大沢キャンパス	
28	石川 亮太	日本人生物学者による朝鮮産海藻調査：岡村金太郎を中心に	2025 年 3 月	国際高麗学会日本支部「人文社会研究部会・科学技術研究部会合同研究会」大阪公立大学梅田サテライト	
29	石川 亮太	Emergence of Long-Distance Commodity Chains: Trade System of Japanese Kelp By Chinese Overseas	2025 年 3 月	Association for Asian Studies Association for Asian Studies, Annual Conference, 2025 Columbus, Ohio	
30	佐々 充昭	現代韓国における儒教文化の継承—宗家文化とソンビ精神を中心に	2024 年 10 月	立命館大学文学部、高麗大学校文科大学、高麗大学校博物館「立命館大学文学部、高麗大学校文科大学、高麗大学校博物館」京都	
31	高屋 和子	「中国の食糧安全保障と日中協力の可能性—日本の商社を事例に—」	2024 年 10 月	吉林大学東北亜学院「東北亜地区和平与発展論壇」吉林省	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1.	日中韓国際会議 東アジアにおける都市人文学の構築と連帯—21 世紀、地域学の未来を語る	衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2024 年 6 月	50 名	大邱大学校人文科学研究所
2	「やさしく（보드랍게）」上映＋監督との対話	衣笠キャンパス	2025 年 1 月	70 名	立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会、大邱大学人文科学研究所
3.	2024 年又石(ウソク)大・立命館大・浙江(ツォジャン)大、韓中日交流シンポジウム 百済(ペクジェ)の光芒:韓日交流の軌跡	又石大学	2024 年 10 月	60 名	又石大学
4	2024 国際シンポジウム 好感と憎悪の情動地理	東亜大学	2024 年 11 月	50 名	東亜大学ジェンダーアフェクト研究所
5	2025 国際シンポジウム 好感と憎悪をめぐる情動政治学—移動・労働・情動の東アジア複合体—	衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2025 年 2 月	40 名	東亜大学ジェンダーアフェクト研究所
6	2025 統一人文学フォーラム「コリアン平和共同体に向けた知性史的価値志向と共存の可能性」	クイーンズランド大学	2025 年 2 月	60 名	中国海洋大学 韓国語学科、オーストラリアクイーンズランド大学 韓国学科、建国大学統一人文学研究院
7	第 130 回月例研究会 「韓国における事実摘示名誉毀損罪の廃	衣笠キャンパス清心館 SE203	2024 年 5 月	30 名	立命館大学法政基盤研究センター

	止に関する検討」				
8	第 131 回月例研究会 『韓国の良心的兵役拒否に関する再考 —人権保障の側面から反戦平和運動の側 面への転換—』	衣笠キャンパス清 心館 SE205	2024 年 6 月	25 名	
9	第 133 回月例研究会 立命館大学コリア研究センター&ミドル ベリー国際大学院モントレイ校ジェー ムス・マーティン不拡散研究センター「合同」 研究会「朝鮮民主主義人民共和国の核兵器 開発と日本からの支援についての考察」	衣笠キャンパス創 思館 SO411	2024 年 7 月	40 名	ミドルベリー国際大学院モントレイ校ジェー ムス・マーティン不拡散研究センター
10	第 134 回月例研究会 『近代朝鮮文学と民衆：三・一運動、プ ロレタリア、 移民、動員』（春風社、2024）が投げかけ た問い」	衣笠キャンパス学 而館 GJ311	2024 年 11 月	30 名	
11	第 135 回月例研究会 「植民地期朝鮮における共産主義運動史 研究の動向と課題」	衣笠キャンパス創 思館 SO408	2024 年 12 月	30 名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	金 友子	多文化共生社会づくりのための意識 啓発——マイクロアグレッションを 理解する	一般財団法人自治体国際化協会、2024 年度 多 文化共生マネージャー養成研修、オンライン	2025 年 1 月 7 日
2	金 友子	日本におけるマイクロアグレッショ ン： 大学という現場で考える	龍谷大学国際学部 2024 年度人権問題研修会、 龍谷大学（オンライン）	2025 年 1 月 15 日
3	金 友子	たわいもない一言に潜む差別の芽 —マイクロアグレッションって知っ てますか？—	綾部市教育委員会（共催：綾部市人権教育推進連 絡協議会）、2024 年度 人権を考えるセミナー 、綾部市地域交流センター（あやテラス）（京都 府綾部市）	2024 年 11 月 20 日
4	金 友子	在日外国人教育を進めるために — マイクロアグレッションについて考 える—	大阪府教育センター、2024 年度府立学校人 権教育研修 C（在日外国人教育）	2024 年 10 月 23 日
5	金 友子	マイクロアグレッションを理解す る：無自覚な差別・排除への気づき	関西学院大学人権教育研究室、関西学院大学 秋 季人権問題講演会、関西学院大学西宮上ヶ原キ ャンパス	2024 年 10 月 11 日
6	金 友子	マイクロアグレッションを理解す る：無自覚な差別・排除への気づき	関西学院大学人権教育研究室、関西学院大学 秋 季人権問題講演会、関西学院大学神戸三田キャン パス	2024 年 10 月 4 日
7	文 京洙	時論「韓日関係のもう一つの火種（ハ ングル）」	『済州日報』	2024 年 4 月 24 日
8	文 京洙	済州島四・三事件とはなにか——事 件の背景、経緯、問題解決の歩み	大阪民団中央支部（大阪民団中央支部会館）	2024 年 6 月 21 日
9	文 京洙	戦後の歩みから在日のいまを考える ①—在日二世の視点から振り返る在 日朝鮮人の戦後	新時代アジアピースアカデミー（NPA）第 13 期 在日コリアン Part10 2024 年 7 月 20 日（オン ライン）	2024 年 7 月 20 日
10	文 京洙	戦後の歩みから在日のいまを考える ②—「在日論」論争の軌跡をたどる — 同胞の＜エトノス＞／シティズ ンの＜デモス＞	新時代アジアピースアカデミー（NPA）第 13 期 在日コリアン Part10 2024 年 8 月 3 日（オンラ イン）	2024 年 8 月 3 日
11	文 京洙	時論「吊いの民主主義（ハングル）」	『済州日報』	2024 年 8 月 13 日
12	文 京洙	「吊いの民主主義 — 激動する韓国 社会の底流を探る」新時代アジアピ ースアカデミー（NPA）第 13 期 在 日コリアン Part10 2024 年 8 月 17 日（オンライン）	新時代アジアピースアカデミー（NPA）第 13 期 在日コリアン Part10	2024 年 8 月 17 日
13	中戸 祐夫	"Experts eye China-Japan meeting on sidelines of ASEAN" (interview) by Chung-Hsi Tu, Voice of America	Voice of America	2024 年 7 月 25 日
14	中戸 祐夫	"Tokyo-Beijing Forum Aims To Warm Chilly Relations," (interview) by Chung-Hsi Tu, Voice of America	Voice of America	2024 年 12 月 6 日

15	金丸 裕一	『中国キリスト教史研究入門』を編纂するために一試論的な提言ー	中華圏プロテスタント研究会、神戸外国語大学	2025 年 2 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	金 友子	マイクログレーション概念の社会的含意に関する研究—在日朝鮮人を事例として	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
2	松坂 裕晃	トランスパシフィック思想史・社会運動史の研究：「アフロ・アジア」の視点から	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
3	文 京洙	占領期日本と朝鮮半島間の越境移動に関する研究	基盤研(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
4	文 京洙	冷戦と性暴力ー北東アジアの長期駐留軍とインターセクショナル・フェミニズム	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
5	金丸 裕一	20 世紀東アジア・キリスト教史における他者像形成の動態	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
6	金丸 裕一	近代日中クリスチアンの交流と相剋をめぐる実証研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	庵途 由香	福岡アリラン文庫所蔵「林えいだい資料」収集	2024 年度国外史料収集および調査・解題研究事業 125 万	2024 年 4 月	2024 年 10 月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								